

■ 血液製剤の種類

献血で集められた血液は、さまざまな薬となって、患者さんのもとに届きます。

いただいた
献血血液

輸血用血液製剤

血漿分画製剤

赤血球製剤



出血および赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使われます。

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後28日間

血小板製剤



血小板の減少またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使われます。

- 保存温度 20～24℃
- 有効期間 採血後4日間
- ※令和7年度内に採血後6日間に変更予定
- 要振とう

血漿製剤



複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使われます。

- 保存温度 -20℃以下
- 有効期間 採血後1年間

全血製剤



大量出血などすべての成分が不足する状態で、赤血球と血漿の同時補給を要する場合に使われます。

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間

血液凝固因子製剤



血液が固まりにくい血友病などに使われます。

アルブミン製剤



やけどやショックなどの場合に使われます。

免疫グロブリン製剤



ある種の神経疾患、川崎病、重症感染症などに使われます。

その他

献血血液は、輸血に使用される輸血用血液製剤と、血漿分画製剤という医薬品を作るために使われています。

